

2011 年度事業報告

1. 美しい手賀沼の実現に向けての提言と参画

「美手連は、関係市民団体及び手賀沼水環境保全協議会(手水協)、県、市などの自治体と協力・連携を図り、手賀沼浄化及び環境保全を進め広く市民に呼びかけます。」について

1. 第6期湖沼水質保全計画策定への参画

策定委員として任命された八鍬会長から随時進捗状況について報告があり、また県水質保全課主催の意見交換会(6月、11月)に積極的に参加し意見を述べるとともに、策定委員会にも運営委員が傍聴参加しました。これらによって得られた情報を運営委員会等で共有し、意見交換を行い、八鍬会長を通して、策定委員会へ美手連の意見を届けました。

【意見内容】

9月1日付 *長期ビジョン・目標について

昭和30年代前半の豊かで清らかな水を湛え、様々な生き物が生息し、農業を支え、豊かな漁場を提供するような手賀沼を取り戻すために、第6期水質保全計画を策定するにあたり、平成15~22年度の計画として策定された「手賀沼水循環行動計画」の進捗の振り返りと、それを踏まえた長期ビジョンの検討が必要です。「手賀沼の水辺で遊ぶことのできる水質の実現(水循環回復行動計画)」に向けて、透明度・透視度の改善についての対策を含めて検討する必要があると思います。

1. ハスの調査と、今後について
2. 冬期湛水 水利権の問題は解決できる。印旛沼と同様に実施を望む。
3. PRTR法に基づき 指定物質が含まれている合成洗剤ではないせっけんの使用の推進。
4. 北千葉導水事業の検証
5. COD,T-N、T-P、以外の水質目標値の設定(生物目標、透視度)
6. 手賀沼ピオトープの利用
7. 家庭からの排水抑制事業を実施して行く

10月28日付

第6期以降においては、国ひいては人類全体の共通課題と認められた「生物多様性の保全」を、水質・環境保全の長期ビジョンとして明確に掲げます。水質はそれひとつを改善することはむずかしく、周辺環境や生物多様性が保全されて、はじめて長期的に一定の水質を保つことが可能になります。手賀沼もまたそのような循環型の持続可能な水質・環境保全をめざします。結果として、さまざまな生き物が生息し、農業を支え、豊かな漁場を提供するような手賀沼を取り戻せると考えます。

具体的目標

- ① 最終的な目標(理想)として、「貝類が豊富に生息し、これをエサとするキンクロハジロや、貝類を産卵に利用する在来のタナゴ類が世代交代できる手賀沼」を掲げます。
- ② ①を最終目標として意識しつつ、直近の目標として、「貝類や在来のタナゴ類が世代交代でき、マコモとヨシなどが保全増強され野生生物の休息場を拡充することで、夏はオオバンやカイツブリなど手賀沼での繁殖を促進し、冬はカモ類が毎年沢山渡ってくる手賀沼」を掲げます。
- ③ 「カモとタナゴの暮らす里沼(仮称)」などのキャッチフレーズを策定し、子どもが安心して水辺に遊び、生き物が見られる・ふれられる手賀沼、住民が愛着をもって維持管理にあたる手賀沼をめざします。

これらの目標を念頭におき、流域住人の一人一人が日常的に使った水が手賀沼に流入することを意識し、実行可能な行動メニューを主体的、積極的に実践できるようにすることが重要であります。県・市村は、住民のこのような行動が実践可能になるよう、計画策定、意識啓発(広報)を行い、さらに必要な応じた費用負担をして支援し、関係者が緊密な協調の下、本計画に定める水質保全対策を強力に推進します。

第6期水質保全計画では、長期ビジョンを「湖沼の環境を保全するためには、水質改善だけではなく、周辺環境や生態系を保全することが必要です。水質改善が生物の生息・生育環境を改善し、その生物が水質改善に寄与するという、循環型で持続可能な環境を保全することが、さまざまな生物が生息・生育し、農業を支え、豊かな漁場を提供するような手賀沼を取り戻すこととなると考えます。」とし、生物多様性の視点が明確に盛り込まれました。

2. 川瀬巴水展開催への協力

財団法人我孫子市あゆみの郷・都市建設公社主催の川瀬巴水木版画展が、11月23日～12月4日我孫子市民プラザ・ギャラリーにて開催され、実行委員会(委員長 鈴木昇氏)を構成する市民団体の一つとして当会も開催および運営に協力しました。当期間中に協力した各団体のメンバーは延べ250人であり、そのうち美手連関係者は実に半数以上の140人を数えました。

主催者側の報告によりますと、チケット販売数は当初見込み数(3千枚以上)には及びませんでした。林望先生の事前講演会や展覧会の作品展示、期間中のイベントの開催など、来場者には大変好評であったとのことでした。

3. 浄化槽の日のシンポジウムへの協力

千葉県水質保全課浄化槽班からの依頼があり、10月1日浄化槽の日のシンポジウムにおいて美手連会員団体から2～3団体の事例発表の依頼があり、「せっけんの街」と「消費者の会」の2団体が事例発表を行いました。

発表内容 「せっけんの街」: 食用油の資源循環による水を汚さない運動について

「消費者の会」: 水を汚さない生活の提案

2. 行政との協働事業

(1) 手賀沼統一クリーンディの充実

「手水協、県、市などの自治体及び他団体との連携や情宣の工夫により参加者の拡大を進めます。清掃活動を通して、市民にゴミのない綺麗な環境を維持することの素晴らしさと大切さを体感して貰います。」について

第9回統一クリーンディは、柏地区、我孫子地区、下手賀沼地区、印西亀成川地区の4地区で開催されました。柏地区、我孫子地区、下手賀沼地区は12月4日、印西亀成川地区は12月10日に行われました。

統一チラシは、柏地区新聞販売組合東口店主会 27,000部に加えて、23年度は千葉北部読売会我孫子支に 18,000部を配布してもらいました。それによって印西市に問い合わせがあり、参加もありました。しかし、全ての地区で参加者数は、昨年度並みにはもう少しという状況でした。また、我

孫子地区では草刈ができなかったことにより、根戸新田の清掃ができず、参加者からは残念との声が多く聞かれ、美手連による根戸新田の清掃が定着したことを実感しました。

【柏地区】

参加者 155 名（一般市民 11 人、千葉銀行清風会、青年奉仕隊、竹中土木、北柏町会、柏市役所環境保全課、大堀川の水辺をきれいにする会）

ゴミ収集量 約 1 トン

暖かな快晴のもと、155 人の市民の皆さんが参加しました。風が強かったものの素晴らしい天気にも恵まれてなによりの清掃日でした。柏ふるさと公園から大津川河口までの手賀沼自然ふれあい緑道沿いを 5 班に分け、遊歩道や湖岸の葦原の中のゴミ回収の作業。ひと頃比べるとゴミは少なくなっていますが、茂みの中は相変わらず空き缶やビニール系ゴミが隠れています。釣り人達に、立て看板で事前連絡したこともあり、ゴミ回収に協力的でした。

【我孫子地区】

参加者 450 名、ゴミ収集量 0.25 トン

根戸新田の手賀沼岸辺は、草刈りが間に合わず、清掃することができませんでした。参加者からは、ゴミの袋がもったいない、ゴミ拾いができなくて残念、との声が多く聞かれ、美手連による根戸新田の清掃が定着したことを実感しました。

【下手賀沼地区】

参加者 53 名。

白井環境塾が初めて参加し、流域フォーラム等への参加による交流が拓がりをもたらしました。下手賀沼の堤のゴミは 0.81 トン（印旛土木扱い）と、桜並木のゴミ 0.3 トン（白井市扱い）で合計 1.11 トンでした。これは昨年の印西市の記録と比べると大幅に減少しました。（去年 3 トン⇒今年 1 トン）。【昨年の記録】〔印西市回収分（一般ゴミ）＝約 1 トン。業者回収分（粗大・産廃ゴミ）2,030kg。合計約 3 トン。〕

【印西亀成川地区】

参加者 42 名、ゴミ収集量 0.2 トン

12 月 10 日「ホテルの里クリーン作戦」として、亀成川流域のホテル生息地の滞の草刈と川のゴミ拾いを行いました。草刈とゴミ拾いの後、地蔵寺を借りて、温かい豚汁で昼食。その後、この日に見ることができた植物の実について教えてもらい、800 年前から続く獅子舞のビデオ観賞とその伝統を守っている地元の方の話聞き、充実した一日となりました。昨年夏は、クリーン作戦の効果か、たくさんのホテルを観ることができました。今年もまたたくさん観られることを期待しています。

(2) 流域フォーラムの開催

「第 14 回手賀沼流域フォーラムの事務局を担い、開催します。流域の団体、自治体と連携し実行委員会を組織して、大勢の市民参加をはかります。」について

23 年度は美手連の活動とフォーラム活動の連携が深まり、全体会として、ハス群落見学会、手賀沼南岸の歴史・文化の現状を訪ねるバス見学、大津川河口の清掃を実施し、一層充実したものになりました。また、課題であった白井からの企画参加が実現し、流域 7 市で企画開催することができました。地域企画は、7～2 月にかけて 23 企画が実施され 1,083 名が参加し、全体会 5 企画 351 名と合わせて、1,434 名が参加しました。

テーマ：「よみがえれ手賀沼～生き物たちとともに暮らす街に」

	月日	企画名 ◎は親子企画	企画団体
柏	9/24	手賀川と下手賀沼ウォーキング	柏地域実行委員会
	9/25	手賀の丘公園近くの自然観察手賀・布瀬地区の昔を偲ぶ	沼南手賀沼ボランティア会
	10/2	大津川中流域の自然と歴史を訪ねて	大津川をきれいにする会
	10/8	手賀沼サイクリング	柏地域実行委員会
	10/9	大堀川わくわくウォーキング	大堀川の水辺をきれいにする会
我孫子	7/16、8/20	◎かかし作り、かかしコンテスト	手賀沼トラスト
	10/1	◎手賀沼親子自然観察会-手賀沼用水路で魚とり！	手賀沼水生生物研究会
	10/1	歴史景観散策会（船上見学を含む）	我孫子の景観を育てる会
	10/9	川めぐりと文学散歩	我孫子の文化を守る会
	10/16	◎手賀沼賞 エコ・こども教室 ◎ストリート（発表概要の展示&クイズ）	我孫子市環境レンジャー
	10/23	◎船戸の森をきれいにしよう、みんなでサツマイモほりしよう	船戸の森の会
	11/20	◎手賀沼親子探鳥会	我孫子野鳥を守る会
流山	10/2	◎秋の市野谷の森親子自然教室(市野谷の森自然観察と流山市浄水場見学)	流山市博物館友の会
松戸	7/22	◎手賀沼をもっとしろう！地域を学び水調べと見学会	手賀沼流域フォーラム実行委員会・松戸
	7・8月	◎手賀沼をもっと知ろう！水調べ（7/9、7/22、8/19、8/26）	
鎌ヶ谷	7/16 8/25 9/17 11/12 2/18	◎プールの観察会、プールの水質悪化に対応するため沈水植物をコンテナに植えて設置する、トンボと水草の観察会、調査とまとめ、観察会（アカガエル）	かわ・水・みどり
		冊子「水のはなし・鎌ヶ谷の川」の作成	かわ・水・みどり
白井	10/8 11/19	ぐるっと一周平塚の里～ 白井市平塚地区の里山自然、下手賀沼、文化、歴史等をウォッチング	しろい環境塾
印西	7/27	◎水の旅～手賀沼船上観察、周辺施設見学	印西 水と暮らしを守る会
	8/27	「生きものいっぱい 印西里山」①私の印西里山自慢②里山のはなし（印西ウエットランドガイド）③ケビン・ショートさん講演「里山と妖怪多様性」	北総エコの木の会
	9/23・24	◎亀成川生き物救出作戦	ラーバン千葉ネットワーク 亀成川を愛する会
	10/22	亀成川流域観察会	亀成川を愛する会
	9/23	◎手賀沼の魚を観察してみよう	千葉県手賀沼親水広場
全体会	7/30	◎手賀沼のハスを見よう！	
	10/15	堂本暁子さん講演会「災害と生物多様性」	
	11/4	第1回「手賀沼南岸・手賀沼の歴史・文化の現状をたずねる」	美手連
	1/23	冬鳥とハスを船から見よう	
	3/1	大津川河口の清掃	美手連
	3/9	第2回「手賀沼南岸・手賀沼の歴史・文化の現状をたずねる」	美手連

(3)手賀沼流域協働調査を実施します。

「手水協、県、市などの自治体とともに湧水調査、手賀沼流域河川の水質・生物調査を行います。」について

手賀沼水循環回復行動計画による手賀沼流域協働調査は、平成15～22年度まで春・冬2回実施してきました。23年度は、春の調査は行わず、これまでのまとめと、今後の調査についてのアンケートや検討が行われました。

なお、我孫子地区河川の調査については、間野吉幸さんが詳しい調査報告書（H15～21年について）を作成し、大堀川については、大堀川の水辺をきれいにする会が調査結果を分析し、それに基づいた調査を進めています。この調査結果から診える課題への対応を検討し、活動に反映していきます。

【河川 湖北集水路・第二干拓地低地排水路】

23年度の水質等調査を12月16日に実施しました。参加者は市民6名、我孫子市担当者2名でした。

「調査結果がどのような役割を持ち、水質改善に結びつくか」など、水質調査の目的や、調査継続の重要性への理解を深め、多くの人々が進んで参加するよう努めたく思います。

23年度の水質等調査は河川状況等現地調査・外12項目の水質調査を実施しました。結果はCOD、窒素・リン分等は大変高く検出され、生活雑排水・下水等の影響があり、改善の必要があるものと思います。

【河川 大堀川】

柏地区大堀川の水質・水生生物の協働調査は、大堀川の水辺をきれいにする会が毎年2回実施してきました。数年にわたる実績を踏まえて、昨秋、今後の方針について例会に諮り、従来の測定調査内容を見直しました。今後は測定地点を本流一本とし、北千葉導水注入前後・礫間浄化装置前後・地金堀樋管合流前後・主要流入樋管などのポイントに絞りました。

平成24年1月19日行政の協力も得て実施の結果、上流より下流の方が、COD等水質が良くなっており、流れるに従い微生物、植物で浄化されているものと想定されます。今後この測定調査を継続していくこととしています。

【河川 大津川】1月19日 水質調査

場所：大津川 二子橋

メンバー：沼南 手賀沼ボランティア会3名、柏市環境保全課2名

【河川 染井入落】1月19日 水質調査

場所：染井入落字宮入の無名橋

メンバー：沼南 手賀沼ボランティア会3名、柏市環境保全課2名

【湧水 柏地区①】1月19日

場所：大井・小山台湧水

メンバー：沼南 手賀沼ボランティア会3名、大津川をきれいにする会10名、柏市環境保全課2名
この湧水は隣の家の大きな木を切ったために年々湧出量が少なくなってきました。今回は汲み取ることが出来ず、初めて、『測定不能』の記録をつけました。尚、水質測定用の試験水は水源付近の溜まり水を使って測定しました。

【湧水 柏地区②】1月19日

場所：大井・中の橋前湧水

メンバー：沼南 手賀沼ボランティア会3名、大津川をきれいにする会約10名、柏市環境保全課2名

この湧水は池の中に湧き出し、隣の池の隅から再び湧き出す量を測っていましたが、湧出口から湧水を汲み取るために、池の水をカイボツて水位を下げていました。今回はカイボリ用のバケツを忘れてしまい途方にくれてしまいました。仕方なく、屋敷の周りを見ていたら、だいぶ離れた所で側溝へ再湧出するところを見つけ、そこの湧出量を測って測定値に替えました。尚、報告書には脚注を書いて提出しました。

3. 啓発事業

(1) 次世代に対する環境学習事業

「こども達が手賀沼に触れる機会を増やし、『手賀沼』を伝えます。」について

流域フォーラムの12企画が親子企画として開催され、たくさんの親子参加がありました。毎年参加者が多い手賀沼水生生物研究会の「手賀沼親子自然観察会-手賀沼用水路で魚とり！」などに加えて、船戸の森の会は、フォーラム新規企画として開催し、24名の子どもたちが参加しました。また、我孫子市環境レンジャーは、あびこ子どもまつりに参加し、アビスタストリートに手賀沼賞の作品概要を展示し、そのクイズにおおぜいの参加があり、野鳥カードが大好評でした。亀成川での「生き物救出作戦」にも12家族の参加があり、水路に入って魚とりの楽しさと、生き物を大切にすることを学びました。

(2) 手賀沼とその流域に関する情報の提供

「ホームページの充実を図ります。加盟団体と連携して、刊行物出版により、手賀沼に係る情報を広く提供していきます。」について

ホームページには、勉強会のお知らせと、統一クリーンディの報告を掲載しました。更新の担い手を増やすことが依然として課題です。

我孫子野鳥を守る会の40周年記念事業のひとつとして行われた「四季の手賀沼 周辺散歩～野鳥と草木と風景と～」の刊行について、手賀沼基金で助成しました。

(3) 学習会・講演会・見学会の実施

「手賀沼流域の環境を良くするため、幅広く知見を深める機会を設けます。」について

【講演会】

23年度の総会後に、岡発戸・都部の谷津を愛する会会員の青木直芳さんから「昆虫の目から見た岡発戸の自然～絶滅危惧種は保護されているか～」をテーマとして、岡発戸・都部の谷津での昆虫調査から見る生物多様性保全についてお話いただきました。

【見学会】

流域フォーラム企画の「手賀沼南岸・手賀沼の歴史・文化の現状をたずねる」に参加することとし、2回実施したことで、これまで見学会に参加していなかった加盟団体の会員も参加し、手賀沼の歴史や沼南の魅力を知ることができたと好評でした。今後流域フォーラムでは、手賀沼流域の史跡・文化資産を巡り、地域の魅力を再発見できるような企画をそれぞれの地域企画として実施していくことを目指しています。

(4) 勉強会

「会員相互の理解を深め、連携を図るため実施します。」について

各団体の活動目的や内容を共有するために実施しています。23年度は、「第6期手賀沼に係る湖

沼水質保全計画」策定年度であったため、10月には県水質保全課櫻岡さんを講師として、湖沼水質保全計画の進捗について学習し、理解を深め、長期目標について美手連として意見提出をしました。また、理事会では、団体の活動報告を行い、情報を共有し互いの活動への理解を深めることができました。

7月理事会のあと 我孫子青年会議所（依田）、亀成川を愛する会（竹内）

10月理事会のあと 「第6期湖沼水質保全計画について」 県水質保全課櫻岡さん

4. その他

(1)手賀沼流域の生態系を復活させるための取り組み

「水生生物再生事業について、行政、加盟団体とともに調査・研究を進めます。特定外来生物の調査、駆除の活動を支援します。」について

・大津川河口土砂堆積地でのオオカワヂシャ生息への対応

流域フォーラム事業として、大津川河口土砂堆積地の清掃を計画し進める中で、千葉県生物多様性センターの指導のもと、オオカワヂシャの自生を確認しました。事前調査に県土整備部柏土木事務所の委託業者が参加し、現地調査と測量を実施しました。さらに、3月1日の清掃活動の際には、植物体ごと表土を剥いで、土嚢に詰め、経過を観察して、今後の駆除について検討しています。24年度は、フォーラム事業としてオオカワヂシャの自生調査を実施します。

・亀成川源流域の生態系保全の活動の支援

亀成川を愛する会の活動により、この源流域（千葉ニュータウン事業 21 住区）は、水系（調整池、湿地、亀成川）とその周辺樹林地のみならず、その周囲の広大な草地も含めて、全国レベルで貴重な生態系であることが明らかになりました。この地域の生態系を保全するための、生物調査や水質調査に美手連加盟団体の専門家が協力しています。また、手賀沼流域フォーラムでは調査活動について助成し支援してきました。手賀沼流域にこのような貴重な地域が残っていることを誇りとし、保全できるよう協力していきます。

(2)その他

「美手連の目的を達成する事業について支援します。」について

- ・ NPO 法人アコバが県との協働事業として進めている「民が民を支える仕組み構築モデル事業・東葛地域」について、運営委員会で説明を受け、加盟団体へ情報提供しました。
- ・ 東京大学大学院山室真澄教授から、24年4月6日の新入生実習への協力依頼があり、スケジュール設定、資料「里沼 手賀沼の変遷」の作成等、打ち合わせを重ね、準備を進めました。